

高齢者・障害者世帯で増加

今年5月の生活保護利用世帯は163万5049世帯で、前年同月と比べて高齢者世帯と障害者世帯で増加したことが10日までに、厚生労働省の調査でわかりました。

調査によると、生活保護利用世帯（保護停止中を除く）は前年同月より2478世帯少なくなりました。しかし、世帯類

5月 生活保護利用

型別にみると、高齢者世帯と障害者世帯は前年同月より増加。高齢者世帯は1万5736増の89万5931世帯となり、障害者世帯は3533増の20万249世帯となりました。

707世帯、失業などその他の世帯は6363減の24万3759世帯となり、いずれも少なくなりました。

全利用世帯のうち高齢者世帯は55%を占め、うち9割が単身世帯でした。高齢者世帯が増加するなか、生活保護の扶助のうち、介護保険給付に対する介護扶助を5月に利用した人は前年同月比1万3438増の38万8748人となりました。

一方、母子世帯は前年同月比5468減の8万1846世帯、傷病者世帯は9916減の20万5